

鍛冶屋町通り / ウンスンカルタ、味噌醤油・茶

江戸時代（1603-1867 年）、人吉の鍛冶屋町では、鉄を打つ金槌の鋭い音があちこちで鳴り響いていました。今日、鍛冶屋町で営業している鍛冶屋はもういませんが、地区の保全が行われており、大通りには現在、伝統的な家族経営の店が軒を連ねています。道沿いや一部の建物にある標識（主に日本語）には、商人の家の特徴や、人吉の鍛冶屋たちがかつて遊んでいたウンスンカルタなど、地元の文化が紹介されています。

醤油蔵見学

釜田醸造所は、大正時代（1912-1926 年）の商人の屋敷で営業を行っている、みそ・しょうゆ蔵です。建物は何度か改修が施されているものの、本来の特徴やデザイン要素の多くが今でも残されています。醸造所は無料で見学可能で、みそ・しょうゆの生産工程を学ぶことができます。

お茶と文化体験

立山商店は、古い商人の屋敷であり、伝統的な茶屋庭園を見渡すことのできるテースティングスペースのある茶屋です。立山家は、1877 年よりお茶の御用商人でした。お茶の淹れ方ワークショップ、生け花、抹茶のテースティング、着物の着付け付き茶会体験などを提供しています。

伝統的なウンスンカルタ

鍛冶屋町では、5 組み 75 枚からなるウンスンカルタについて学ぶことができます。ウンスンカルタは、16 世紀にポルトガルの商人たちがもたらした遊びから進化したものです。このカルタ遊びは、日本中で人気になりました。しかし、この遊びは賭けに使われる可能性があったため、18 世紀末に行われた一連の保守施策（寛政の改革）のもと江戸幕府により禁止されました。これらの施策にもかかわらず、人吉・球磨ではウンスンカルタが遊び続けられ、現在まで生き残っています。鍛冶屋町にあるウンスンかるたの家では、ウンスンかるたで遊んだり、ウンスンかるたについて学ぶことができます。ウンスンかるたは、重要無形民俗文化財に指定されています。